

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 29 年 2 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 2 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③、図 3～8）

大分県監視カメラによる観測では、15 日に伽藍岳で噴気が稜線上 100m まで上がりましたが、それ以外の日には噴気は観測されませんでした。

22 日から 24 日にかけて鶴見岳及び伽藍岳の噴気地帯で現地調査を実施しました。鶴見岳の地獄谷赤池噴気孔や伽藍岳の噴気地帯では、噴気の状態や周辺の地形に特段の変化は認められませんでした。また赤外熱映像装置¹⁾による観測でも熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④）

火山性地震の月回数は 1 回（1 月：3 回）と少ない状態でした。

火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 9、図 10）

GNSS²⁾連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 3 月分）は平成 29 年 4 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の状態
 2月15日、大分県監視カメラによる（図中の緑丸は伽藍岳の噴気）
 大分県監視カメラによる観測では、15日に伽藍岳で噴気が稜線上100mまで上がりました。

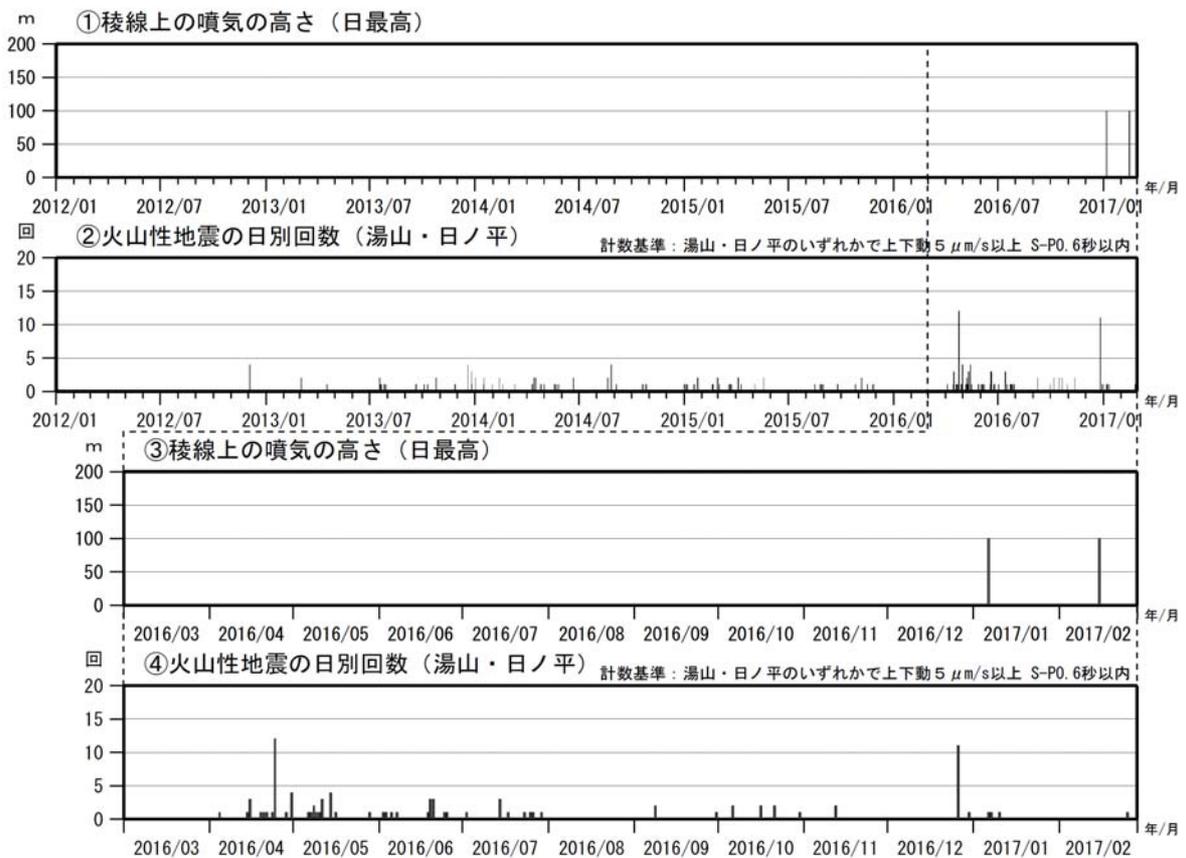


図 2 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012年1月～2017年2月）

< 2月の状況 >

- ・火山性地震の月回数は1回（1月：3回）と少ない状態でした。
- ・火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。
- ・15日に伽藍岳で噴気が稜線上100mまで上がりましたが、それ以外の日には噴気は観測されていません。

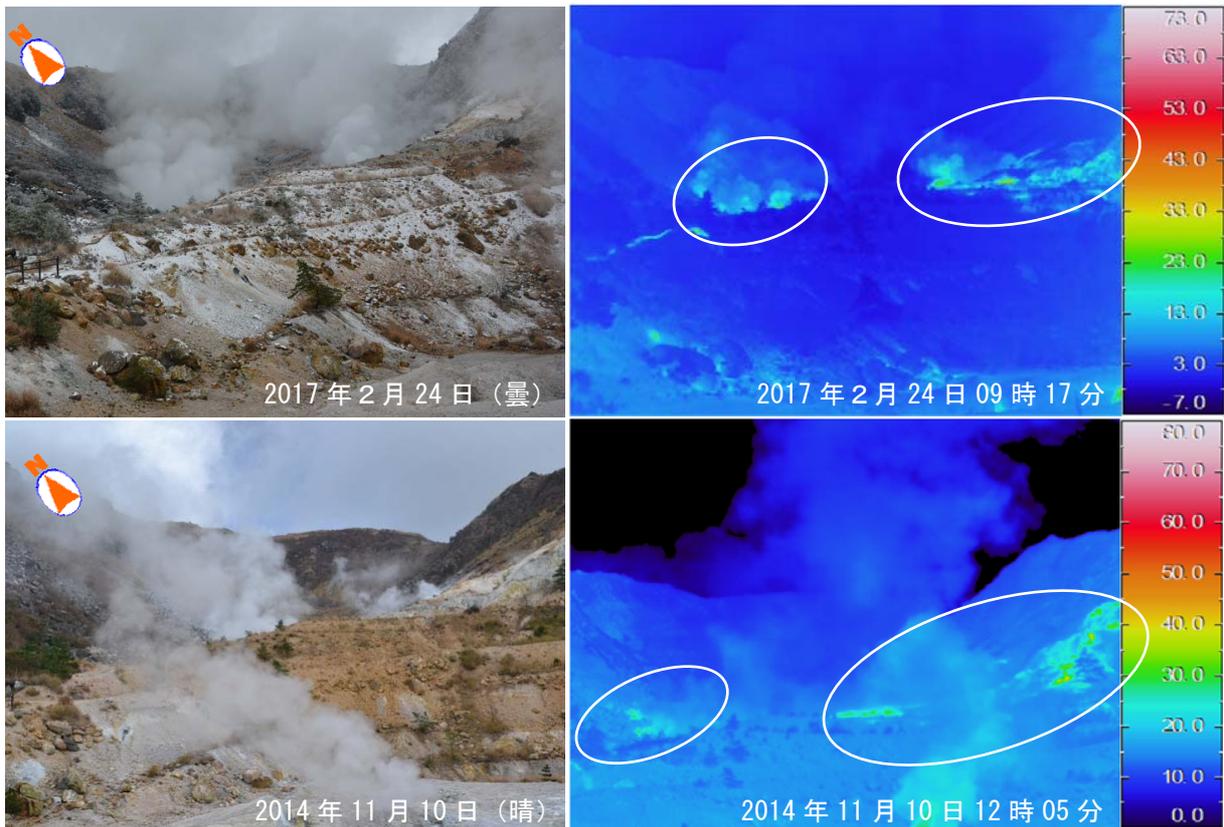


図3 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳噴気地帯の赤外熱映像装置による地表面温度分布
 (図中の白丸は伽藍岳噴気地帯の熱異常域を示す)

以前の観測（2014年11月10日）と比較して噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。大分県監視カメラにより観測した噴煙は、伽藍岳噴気地帯からのものと推定されます。

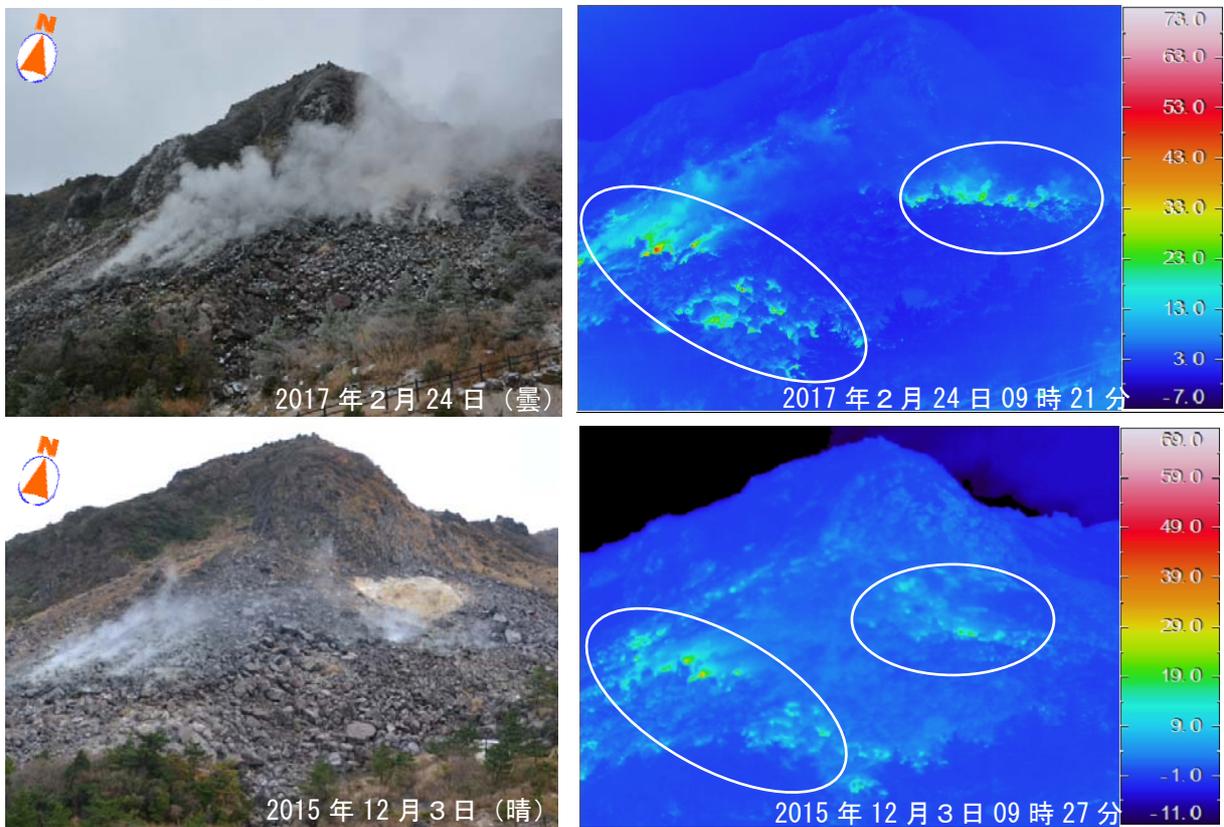


図4 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳噴気地帯の赤外熱映像装置による地表面温度分布
 (図中の白丸は伽藍岳噴気地帯の熱異常域を示す)

以前の観測（2015年12月3日）と比較して噴気量が多い状態でしたが、熱異常域の分布には特段の変化は認められませんでした。

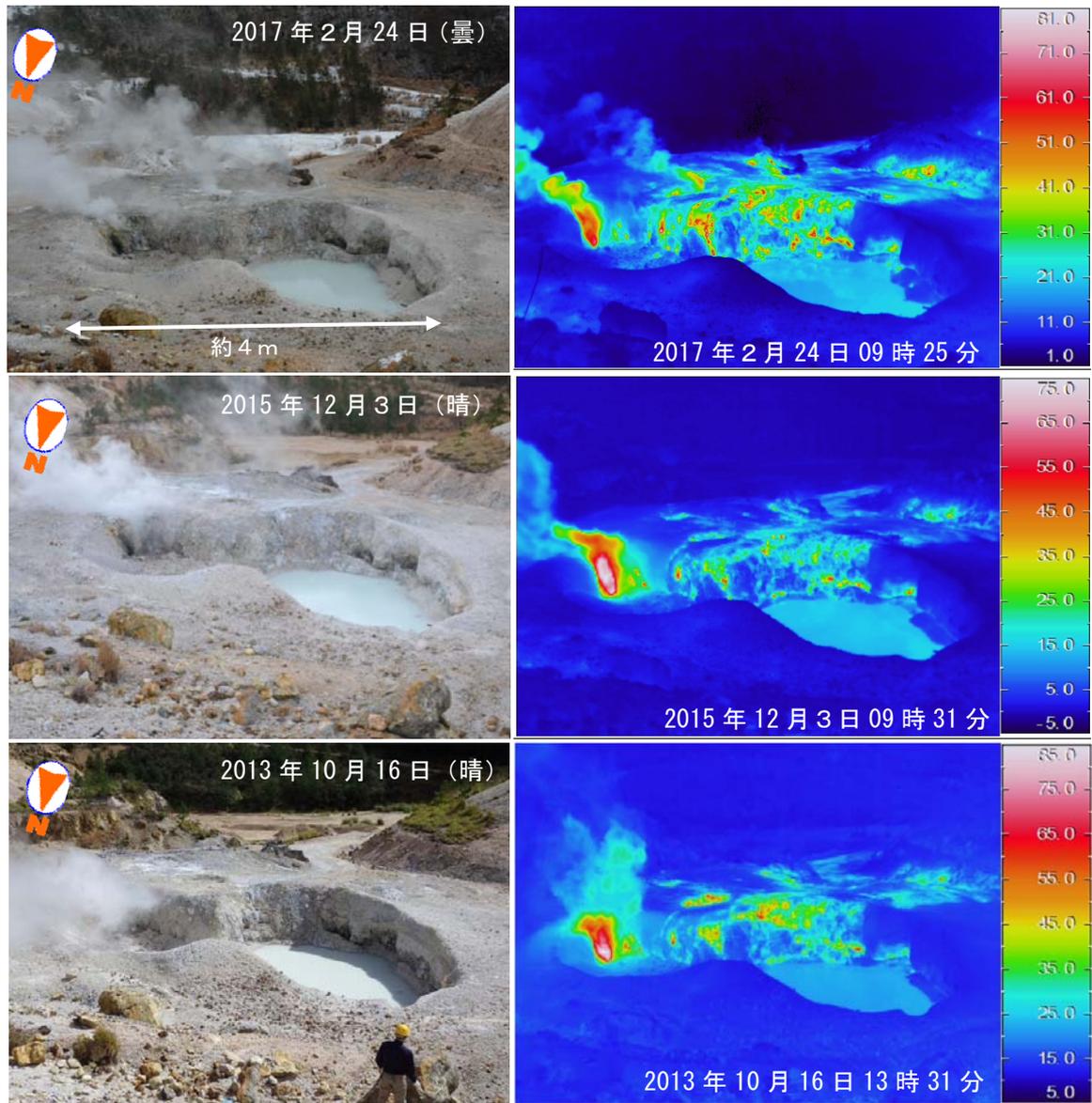


図5 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳泥火山の赤外熱映像装置による地表面温度分布

以前の観測（2015年12月3日及び2013年10月16日）と比較して噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

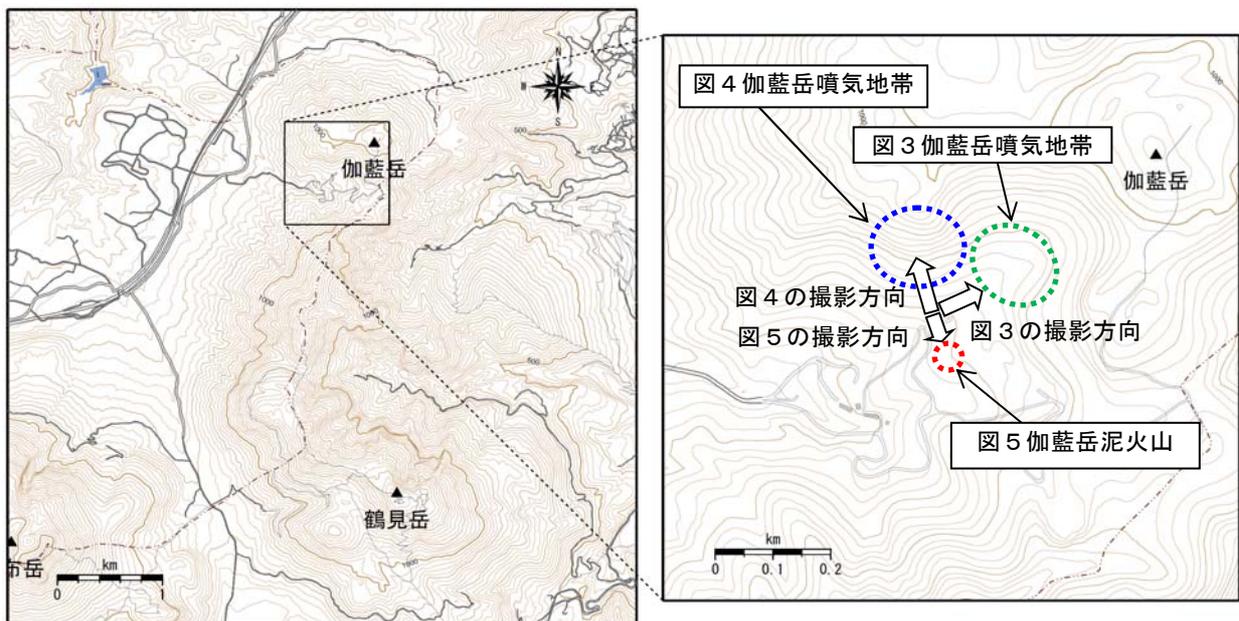


図6 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳泥火山と噴気地帯の位置及び図3～5の撮影方向

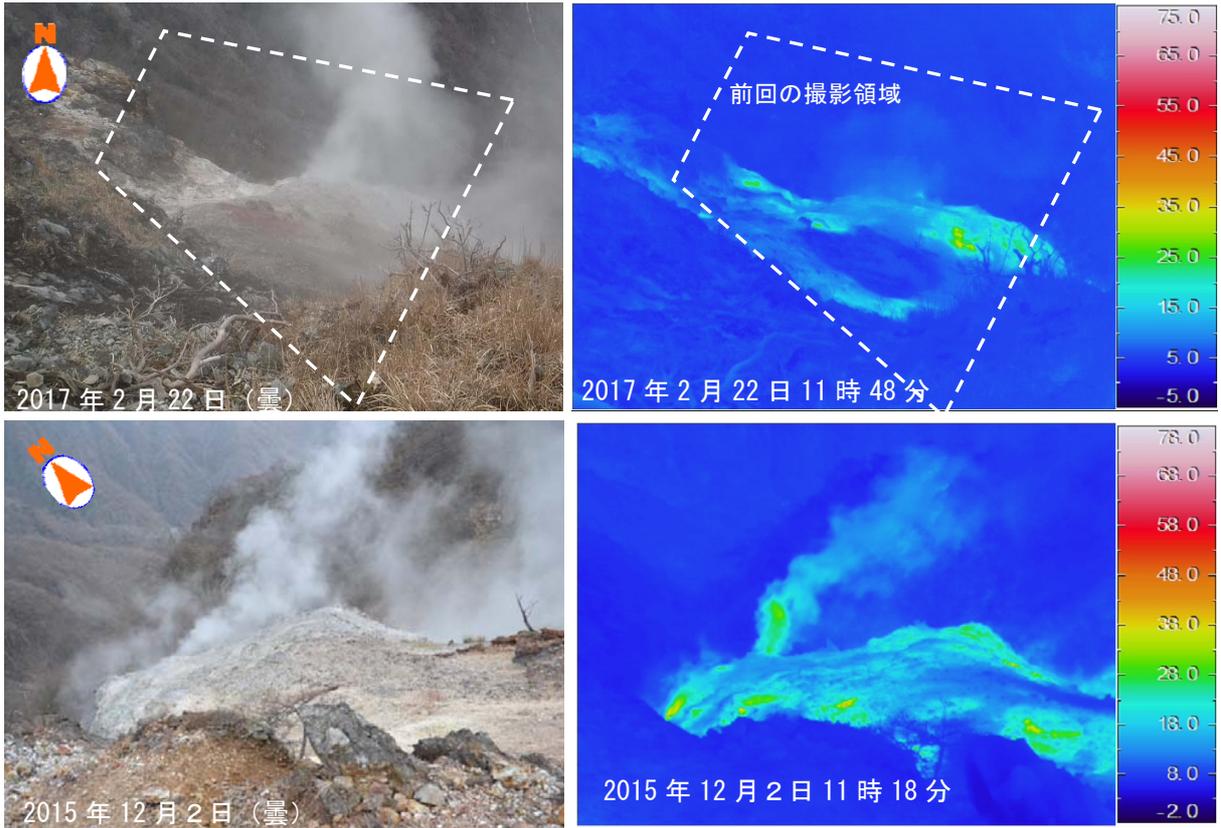


図7 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の赤外熱映像装置による地表面温度分布
 撮影箇所の違いがありますが、以前の観測（2015年12月2日）と比較して噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

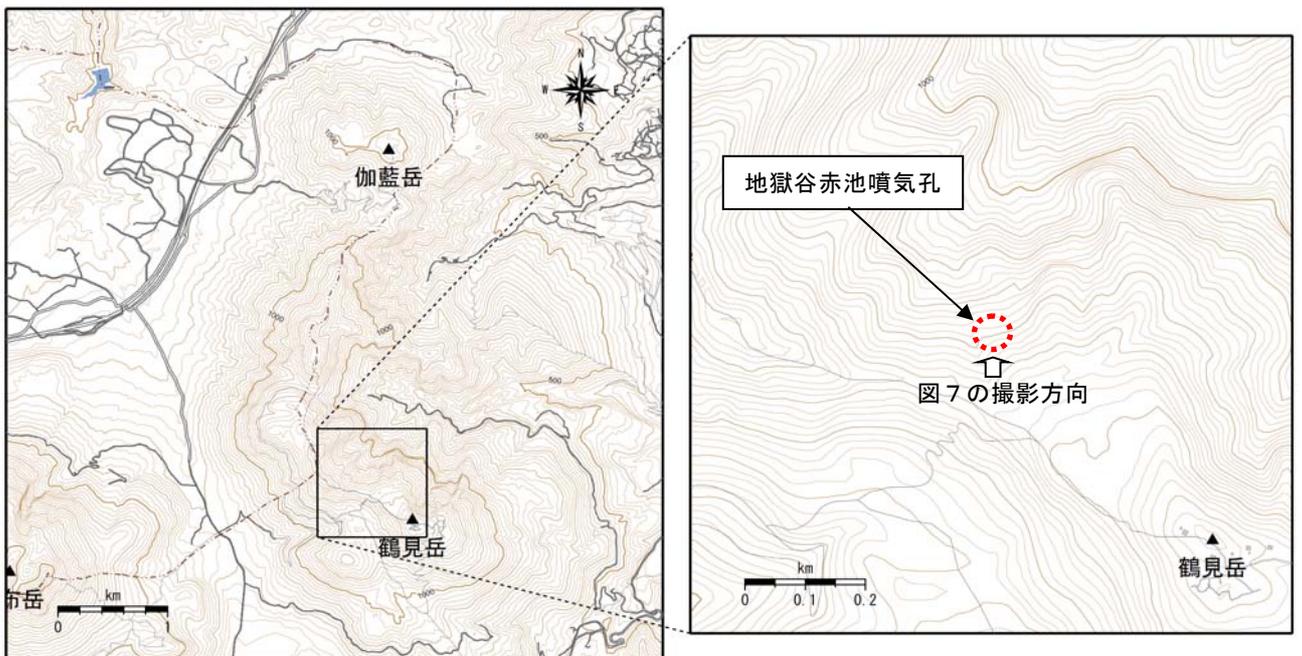


図8 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の位置及び図7の撮影方向

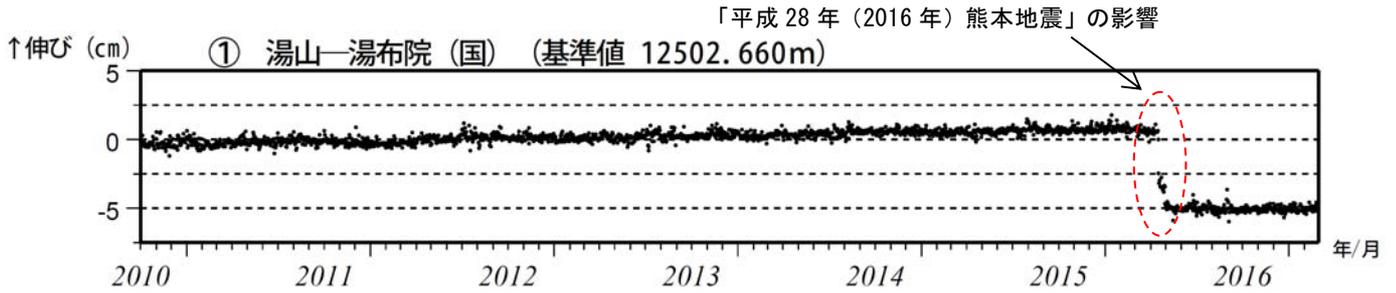


図 9 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2017年2月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 10 の①に対応しています。

（国）：国土地理院

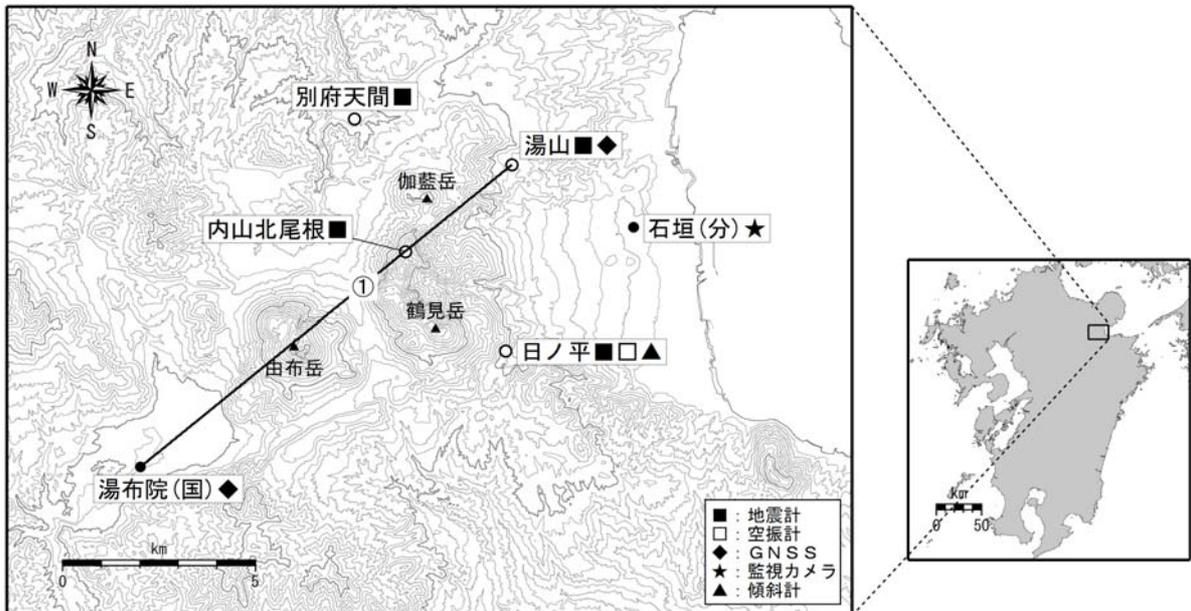


図 10 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。